

ウラジロの話

ウラジロは、シダの仲間です。葉の裏が白いのでこの名前がつきました。科学文化センターの自然史展示室の入口にある照葉の森にも生えています。生えているといっても本物そっくりの模型です。

照葉の森に生えているように、ウラジロは暖かい地方の植物で、日本海側では新潟県まで分布しています。南の暖かい地方では、高さが2mにもなり、大きな群落を作るので、遠くからでも目につきます。

大きな葉が群がっているのもろむき諸向ともいいます。葉の柄は、褐色で太く、これで箸を作ったり、籠をあんたりしています。富山に生えているものは、高さが50cm位で、しかも数が少なく、また、目印となる白い部分が葉の裏側なので、なかなか目につきません。しか

し、葉はほかのシダに比べてこわく表面がやや光っているので、見なれた人にはすぐわかります。

富山では、県内の低い山に生えているのを時々見かけます。今までに見受けたところは、氷見・小矢部・小杉・八尾・五百石・上市・滑川・魚津・黒部・朝日などですが、この



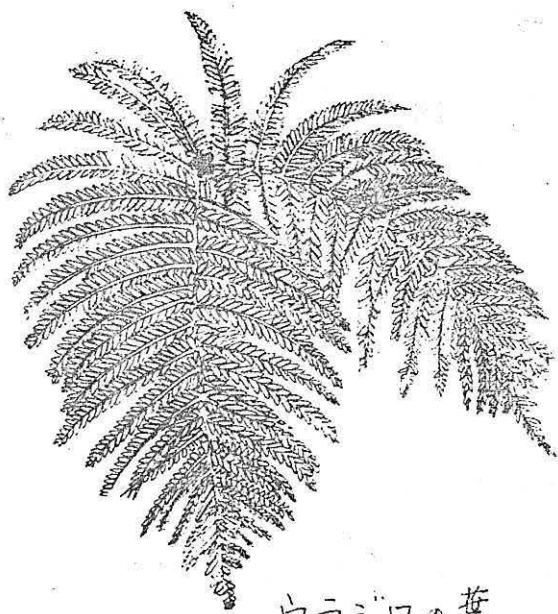
ウラジロの分布図

ほかにも生えているはずです。呉羽山にも生えています。寒さに弱いので、冬の寒風が直接当たらないような林の中やぶちに生えています。やや乾燥したところを好みます。

普通、シダといえば、シダの仲間全体をいいますが、特にウラジロだけを指すことがあります。ウラジロは、枝のような葉の柄を地下茎から伸ばし、先端で2つに分かれた葉(葉身)をつけます。春になると、2つの葉身の分かれ目から、芽を伸ばして再び2つに分かれた葉身をつけます。これを、毎年くりかえして、だんだん背が高くなるので齒朶(シダ)と書きます。「齒」は年を、「朶」は枝を表わしています。年々、新しい枝を伸ばすというウラジロの特徴をよく表わしています。

お正月のしめ飾りに、ウラジロを使うのは、齒朶にあやかって、年々、命を延ばしたいということなのでしょう。

また、ウラジロの白さは、^{シダが}白髪シダがの生えるまで、長生きしようということにもつながっているようです。(S.N)



ウラジロの葉

富山市科学文化センター ○開館 午前9:00～午後4:30
〒930-11 富山市西中野町3丁目1番19号 最終プラネタリウム3:40より投映
TEL 富山 (0764) 91-2123 ○入館料 大人200円 小人100円
○付属天文台 富山市五福8番地○休館日 月曜日・祝日
☎ (0764) 32-3334 (ただし5月5日と11月3日は開館)